

# JENESYS<sup>2.0</sup>

歴史・文化遺産・伝統文化 第14陣（地方プログラム）  
ミャンマー訪日団の報告会・ホストファミリーとの歓送会の実施

平成26年10月



今般、JENESYS2.0により訪日したミャンマー大学生・大学院生訪日団一行(51名)は、地方プログラムとして岡崎市を訪問しました。岡崎市では、40年以上にわたり、民間レベルでの積極的なミャンマー支援が行われており、今回のミャンマー大学生・大学院生の岡崎訪問に対しては、総勢40名以上からなる企画委員会を発足し、半年もの間にわたるご準備をいただき、一行をお迎えいただきました。

同企画委員会委員長には、元ラングーン日本人学校教諭で、ミャンマーでの学校・図書館建設、消防車寄贈等を通じた支援活動を行っている松井幸彦元緑丘小学校校長にご就任いただき、様々なプログラムの企

画にあたり、陣頭指揮を執っていただきました。

訪日団一行は、岡崎滞在中、岡崎市役所をはじめ、上地小学校、竜南中学校、羽根小学校、翔南中学校、愛知教育大学、星城大学への学校訪問と学生交流、イオンモール岡崎及び三菱自動車岡崎工場への企業訪問を行い、おかざき匠の会による伝統文化体験を通じ、実際に和蠟燭への色つけや石材加工等を行いました。また、岡崎城と家康館では、グレート家康公「葵」武将隊にお迎えいただきました。

一行は、企画委員会と岡崎城南ロータリークラブ、岡崎市国際交流協会のご協力をいただき、36家庭に分かれてのホームステイを行いました。ホストファミリーとの対面式には、城西高校の太鼓部に特別出演いただき、ホームステイを前に緊張した面持ちの一行の心を和ませていただき、同時に対面式を大いに盛り上げていただきました。

ホームステイでは、各ご家庭に実の息子、娘同様にあたたかく迎え入れていただき、共に家庭料理を味わい、日本の習慣や生活を体験させていただき、充実した楽しい一時を過ごしました。

10月26日、ホームステイを終え、ホストファミリーとの報告会、歓送迎会が行われ、安倍昭恵内閣総理大臣夫人、内田康宏岡崎市長、キン・マウン・ティン在京ミャンマー大使にもご出席いただきました。

報告会では、冒頭、松井幸彦企画委員長が開会宣言を行い、内田康宏岡崎市長から、ミャンマー大学生訪日団へ歓迎と訪日した青少年が、新しい時代の架け橋となってくれることを心から期待したいとのご挨拶がありました。

キン・マウン・ティン在京ミャンマー大使からは、関係者への謝意とともに、今後も、青少年交流の一層の促進と、日本とミャンマー関係の発展を祈念したいとの期待が示されました。

安倍昭恵内閣総理大臣夫人からは、ミャンマーへの支援活動等を通じ、友好関係にある岡崎市に訪日団をお迎えできたことを心から嬉しく思うとして歓迎を述べられ、これまでのご自身のミャンマーとの関わりを始め、ミャンマーに対する思いが述べられました。

一行からの報告では、歴史・文化関連の施設や教育現場等の視察を通じ、日本の技術の高さ、教育方法の違い、日本人の習慣や気質についての理解を深められたこと、ホームステイを通じた日本の生活体験や日本人との交流ができたこと、今回の経験を、帰国後、記事の投稿やボランティア活動への参加の形で多くの人々と共有したいとの決意の表明があり、すべてのホストファミリーに深々なる謝意が述べられました。

また、ホストファミリーの体験スピーチ、訪日団による伝統演舞披露、写真撮影を行い、報告会・歓送会は和やかに執り行われました。

(参考) JENESYS2. 0

2013年1月18日、インドネシア訪問中の安倍総理は、2007年から実施したJENESYSの後継として、3万人規模でアジア大洋州諸国との間で青少年交流事業「JENESYS2. 0」を実施することを発表。この事業は、日本経済の再生に向けて、我が国に対する潜在的な関心を増進させ、日本を訪れる外国人の増加を図ると共に、クールジャパンを含めた我が国の強みや魅力等の日本ブランド、日本的な「価値」への国際理解を増進させることを目指している。 (了)